

伊勢志摩サミット三重県民会議第3回事業推進部会

事項書

日時：平成27年9月14日（月）

14:00～14:30

場所：伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

5F 会議室

1. 開会

2. 議題

(1) 県民会議事業の展開について（資料1～16）

3. 報告事項

(1) 東海三県一市での取組み紹介

4. 閉会

【配布資料】

- ・ 資料1：宿泊予約センターについて
- ・ 資料2：配偶者プログラムについて
- ・ 資料3：ジュニアサミットについて
- ・ 資料4：シンボルマークの作成について
- ・ 資料5：サミットフォーラムについて
- ・ 資料6：県産食材等の利用促進に向けた取組について
- ・ 資料7：弁当供給体制の整備について
- ・ 資料8-1：クリーンアップ活動（環境美化・清掃活動）について
- ・ 資料8-2：花いっぱいおもてなし運動について（案）（新規）
- ・ 資料9：ホームページ・SNSのリニューアル及び運営について
- ・ 資料10：公式ポスター第2弾以降の制作について
- ・ 資料11：カウントダウンボード、ノベルティを活用したPR展開
- ・ 資料12：プレス等を活用した情報発信の展開について
- ・ 資料13：三重県情報館（仮称）について
- ・ 資料14：三重県情報誌及びプレス用ハンドブックの作成について
- ・ 資料15：多様な主体における国際理解・国際交流事業について（案）（新規）
- ・ 資料16-1：インフォメーション機能の整備について（案）（新規）
- ・ 資料16-2：外国語案内ボランティアについて（案）（新規）
- ・ 参考資料：東海三県一市知事市長会議について

平成 27 年 9 月 14 日
開催支援課

伊勢志摩サミット宿泊予約センターについて

1 目的

サミット開催時に集中的に来県する関係者の宿泊先を、安定的かつ効率的に確保・提供するとともに、宿泊者及び宿泊施設に対する適切なサポートや三重県の観光振興につながる取組を行う。

2 取組内容

(1) センターの役割

伊勢志摩サミット三重県民会議が公認する宿泊予約センターとして、サミット開催時に集中的に来県する関係者に対し、宿泊先となるホテル等を安定的かつ効率的に確保し、宿泊希望者への円滑かつ適切な申込み、配宿、精算、情報提供などのサービスを一元的に提供するとともに、宿泊施設に対するサミット関係者受け入れにあたってのサポートや三重県の観光振興に係る取組などを行います。

(2) 宿泊予約取扱対象者

各国代表団、日本政府関係者、警備関係者、消防関係者、医療関係者、報道関係者等

(3) センター概要

①開設日 平成 27 年 8 月 24 日 (月)

②運営事業者 伊勢志摩サミットに係る宿泊手配等業務コンソーシアム
※株式会社 JTB 中部 (代表)、近畿日本ツーリスト株式会社、
株式会社日本旅行の 3 社による共同事業体

③住 所 三重県津市北丸之内 12 番地 株式会社 JTB 中部津支店内
※10 月 1 日に新事務所に移転予定

④電話番号 059-228-8455

⑤営業時間 平日 9 時 30 分から 17 時 30 分まで (土日祝は休業)

(4) 宿泊施設向け説明会

宿泊予約センターにおける配宿業務への理解と協力を求めるため、宿泊施設向け説明会を 8 月 31 日から 9 月 7 日にかけて、伊勢市、志摩市、鳥羽市、津市において計 10 回開催しました。

3 今後のスケジュール

- ・ 10 月～ 宿泊希望者向け問い合わせ対応窓口の立ち上げ
- ・ 12 月～ Web 上での予約受付システムの立ち上げ

平成 27 年 9 月 14 日

開催支援課

配偶者プログラムについて

1 目的

国に対し配偶者プログラムの訪問先や体験内容等についての提案を行うことで、美しい自然や豊かな文化・伝統などの三重の魅力をプログラムに盛り込み、三重の魅力を世界に向けて発信していく。

2 取組方針

- (1) 国が行う配偶者プログラムに、三重県としての提案を盛り込んでもらう。
- (2) 首脳会議が 1 泊 2 日で予定されており、配偶者プログラムもその期間内での実施となる（想定：5 月 26 日午後、27 日午前）。ただし、日程を勘案するとそれぞれ半日程度の行程となり、賢島から遠距離への訪問はできない。

3 提案に向けてのスケジュール

テーマ性やストーリー性を持たせた訪問先やコンテンツを総合的に検討のうえ、県としての案を決定し、国への提案を行っていく

- (1) 配偶者プログラム提案書の作成
29 市町のコンテンツ提案も勘案し、プログラム提案書を作成する。
- (2) 国への提案
国に対し提案。

4 提案後の進め方

国が配偶者プログラムの訪問先等を決定した後は、県民会議の担当となる行程について、県民会議としてコンテンツを具体的に検討し実施する。

平成 27 年 9 月 14 日

事業推進課

ジュニアサミットについて

1 目的

ジュニアサミット参加者が三重県の魅力に触れるとともに、三重県の子ども達に交流機会を提供します。

2 現状

ジュニアサミットは、国が主催するサミットの関連行事であり、開催について現時点では未定です。

8月5日、鈴木知事から、中山泰秀外務副大臣に要望書を渡し、伊勢志摩サミットにあわせ、本県でのジュニアサミット開催を強く要望しました。要望書の主な内容は、以下のとおりです。

- (1) 参加者が、三重県の持つ、日本の原風景ともいえる美しい自然、豊かな伝統・文化など、日本の魅力そのものに触れていただける絶好の機会であること
- (2) 2008年のJ8サミット千歳支笏湖と同様に、ジュニアサミット開催の成果を未来に生かしていきたいこと
- (3) 県内の複数自治体から会場受入の意向があり、県・市町一体となって開催に臨む機運が高まっていること
- (4) 本県で開催決定の折には、三重県ならではの討議テーマの提案や討議に資する現地視察、県内分散型の体験・交流等についての提案、協議を行いたいこと

また、会場受入意向のある6市（四日市市、桑名市、鈴鹿市、名張市、亀山市、熊野市）について照会を行いました。

3 取組方針

- (1) 県民会議として開催企画案を策定し、外務省へ提案します。
- (2) 開催企画案には、三重県の独自性ある提案を盛り込みます。
 - ①これまでの事例のような、討議日程終了後の視察プランだけでなく、討議前にテーマに関連する県内施設などを視察するとともに、県内高校生と意見交換などの交流を行うプラン
 - ②参加者が分散して県内各地で体験・交流を行うプランを盛り込んで行きます。
- (3) 開催日程を通して、県内高校生等が参加者と交流できる機会を可能な限り設けられるよう、外務省と協議します。

【開催日程案のイメージ】（9日間）

- 1日目 ジュニアサミット参加者 三重県へ到着
- 2日目 開会式及び歓迎行事・視察等（開催地域周辺）
- 3日目 討議テーマに関連した視察・県内高校生等との交流
- 4～6日目 集中討議（夜は地元自治体を中心に歓迎・交流行事を予定）
- 7日目 三重県体験・交流行事
<県内各地に分散し自然・文化・歴史体験と地域交流>
- 8日目 首相への成果文書提出
- 9日目 閉会式、帰国

※下線部が県民会議事業

平成 27 年 9 月 14 日
事業推進課

シンボルマークの作成について

1 目的

国によるロゴマークの決定は平成 28 年 1 月以降と見込まれています。

国の決定に先んじて、県民会議や県民会議の活動に賛同する多くの県民ができるだけ早期に、かつ自由に使用できる県民会議としてのシンボルマークを独自に作成し、広報活動に活用することで開催気運の醸成をはかります。

また、選定の考え方自体を県民会議の活動方針の象徴とし、県内外に強いメッセージを伝えていきます。

2 作成方法等

(1) 作成方針

シンボルマーク作成のプロセス自体に県民会議からのメッセージを込め、県内外に発信していきたいと考えています。

① 近藤敦也氏に作成を依頼

近藤氏は北勢きらら学園在校時の作品が平成 20 年の北海道洞爺湖サミットのロゴマーク公募で最優秀作として採用され、その後、筋ジストロフィーという難病を抱えながらも、夢であったグラフィックデザインの仕事に従事され、現在に至るまで継続的にデザインに関わっておられます。

今回、同氏にシンボルマークを作成いただくことで、北海道洞爺湖サミットの経験を伊勢志摩サミットの成功と三重県の明日へつないでいく、また、多様な主体に参画いただくことを、県民会議からの強いメッセージとして発信します。

② シンボルマークの県民投票

県民会議の基本的な考え方である「さまざまな県民が準備段階から事業の企画に携わり、実施して、サミットに参画する」ということを実現するため、近藤氏に作成いただくシンボルマーク数案を、県民投票へかける機会を設けていきます。

※ 近藤氏とシンボルマーク作成スケジュール調整中につき、実施可否は今後の調整となります。

(2) 契約方法

シンボルマークの作成に係る業務委託契約を締結し、作成します。

委託先 : 特定非営利活動法人 ユーネットみらい

※ 近藤敦也氏に作成を依頼するものであるが、所属の NPO 法人に業務をサポート頂くため、当該法人と契

約

※ NPO 法人ユーネットみらいについて

2008 年から特別支援学校の卒業生、保護者、教職員、民間事業者により、チラシ、ホームページ作成等の活動を開始。2012 年に関係職員の人事異動に左右されない組織の独立性と、広範な組織と連携して活動を展開するため、NPO 法人ユーネットみらいを設立。

契約内容 : シンボルマーク、マーク使用規程、共通デザイン、ポスター及び名刺台紙デザインの作成

契約金額、履行期間等は現在調整中。

3 スケジュール

(1) 8 月 19 日 : シンボルマークの作成と発表時期に関する発表

(2) 8 月 21 日 : 知事から近藤氏へのマーク作成依頼

15 時 40 分

場所：北勢きらら学園

～

近藤氏へ知事からシンボルマーク作成を依頼する場面を設定し、プレス取材を通して情報発信。

16 時 10 分

(3) 9 月 28 日～ : 近藤氏作成のマーク候補案（数点）を県民投票（予定）

10 月 2 日

複数候補（2～3 点）の中から県民投票を実施し、マーク作成の過程に県民の皆さんが参加できる仕組みを設けるとともに、注目度を向上。

※ 近藤さん側でマーク作成スケジュールを検討中であり、実施可否は今後調整。

※ 県民投票は電子申請システムを利用する予定。

(4) 10 月中旬 : 第 2 回県民会議総会にて発表

4 作成後の展開

(1) 県民会議としての展開

バッジ、名刺、広報用資料、ポスター、封筒、懸垂幕等幅広く展開します。

(2) 協賛事業としての展開

県内外の企業・団体・個人による応援事業の枠組みを活用してシンボルマークを活用頂くことで、広く展開します。

第1回伊勢志摩サミットフォーラムの開催結果について

- 1 日時 平成27年9月5日(土) 14:00~16:15 (開場 13:00)
- 2 場所 志摩市磯部生涯学習センター 多目的ホール
- 3 内容
 - (1) 挨拶 鈴木三重県知事、大口志摩市長
ビデオメッセージ 安倍内閣総理大臣
 - (2) 講演「伊勢志摩サミットに期待すること」
講師 滝崎成樹氏(外務省大臣官房伊勢志摩サミット準備事務局長)
概要 サミットの概要や、三重県の情報発信・県民活動に対する期待についてご講演いただきました。国際メディアセンター及び三重県情報館(仮称)を活用して三重県を情報発信したり、ジュニアサミットの開催が決定すれば、小中高生が世界に目を向ける絶好の機会となるなどのお話をいただきました。
 - (3) トークセッション
スピーカー 山谷吉宏氏(北海道副知事)
ロビン・ハーディング氏(フィナンシャルタイムズ東京支局長)
江崎貴久氏(海島遊民くらぶ代表)
鈴木三重県知事
概要 3つのテーマ(サミット開催地から学ぶ、伊勢志摩の魅力とその発信、県民総参加への取組)に沿って、北海道洞爺湖サミットにおける住民参加の事例や、記者の目から見て一目で日本・三重県とわかる写真の重要性など、貴重な発言や提言をいただきました。
- 4 参加者
376名
うち一般参加者300名(満員)
うち報道・来賓・関係者等76名
- 5 アンケート結果
 - (1) 一般参加者300名中、160名から回答(回答率53.3%)
 - (2) 伊勢市・鳥羽市・志摩市・南伊勢町からの参加者
51.0%
 - (3) フォーラムの内容について
「大変良かった」、「良かった」…99.3%
 - (4) 「伊勢志摩サミット」への関心や、おもてなしへの参加意欲が深まったか、おもてなしへの参加のきっかけになったかについて
「大変そう思う」、「そう思う」…95.8%
 - (5) その他、主な意見
 - ・経験者や専門家からの話やアドバイスは非常に参考になった
 - ・具体的な話なので非常にわかりやすく、不安が少し解消された
 - ・どのように参画していくのかを考えさせられた など
- 6 今後に向けて
サミット開催までに、2回のフォーラム開催を予定しています。

平成 27 年 9 月 14 日

開催支援課

県産食材等の利用促進に向けた取組について

1 目的

伊勢志摩サミット開催を契機とし、質の高い県産食材等の P R を行うことで、需要拡大及び販売促進につなげていく。

2 基本的な考え方

全県をあげて、質の高い県産食材等をリストアップし、サミットにおける国の公式プログラムやレセプション等のほか、プレスツアー等の行事の食事メニューにおいて採用されるよう、県産食材等の活用を国や関係ホテル等に対して積極的に提案していく。

3 今後の進め方

- ・食 材：各市町から提出された推薦食材を集約してリストを作成し、事業推進部会の承認を得てリストを確定する。
 - ・加工品：県内に主たる事業所がある事業者が製造又は加工した食品や、江戸時代以前から県内で製造・販売されている餅菓子について公募中。公募後は、みえセレクション選定品を含めて、審査会を経てリストを確定する。
 - ・日本酒：日本酒についてもあわせて国に提案すべく準備を進めている。
- ※上記食材等については、10 月に国に提案予定。

平成 27 年 9 月 14 日

開催支援課

弁当供給体制の整備について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、警備、消防、医療、現地スタッフ等に対し、安全・安心かつ美味しい食事を大量に継続して提供するための体制を整備し、関係者用の受注窓口を設置する。

2 取組内容

(1) 業務内容

- ・弁当の受注、製造、配送及び空容器の回収
- ・県産食材の活用及び P R

(2) 取扱対象者

警備関係者、消防関係者、医療関係者、現地スタッフ等を想定

3 取組方針

(1) 事業者の選定

企画提案コンペを実施し、事業者を選定する。

(2) 事業者の選定方針

- ・弁当の製造・配送能力
大量の食事を継続して供給できる体制を整える。
- ・食品衛生対策
食中毒の防止など、安全で安心な食事の供給体制を整える。
- ・環境への配慮
ゴミの減量化やCO₂の削減に努めるなど、環境への負荷を小さくする。
- ・県産食材の活用
県産食材の活用、地域に根差したメニューの採用など、本県の魅力の発信につなげる。

4 今後のスケジュール

平成 27 年 10 月

企画提案コンペの公告、事業者の選定

12 月～1 月

弁当受注窓口の設置

平成 27 年 9 月 14 日

事業推進課

クリーンアップ活動（環境美化・清掃活動）について**1 目的**

サミット開催にあたっては、各国関係者はもとより、多くの報道関係者や関係者が訪れると予想されます。これらの来訪者により快適な滞在環境を提供し、県民の歓迎の意を表現するとともに、一人でも多くの県民が来訪者歓迎に関わり、機運醸成や参加意識の向上をめざします。

2 事業の概要

県民会議や県、市町及び各団体・企業等の多様な取組を生かしながら、県民が一体となって、開催地周辺のみならず、全県的にクリーンアップ活動を、協賛、応援事業の枠組も活用して展開します。

3 取組方針

- (1) 市町や自治会、関係団体・企業の実施しているクリーンアップ活動等を生かし、全県的な取組として展開します。
- (2) 県民参加の機運醸成のため、キックオフイベント等を実施することで一体感と発信力を高めていきます。

4 今後の進め方

- (1) 関係者の協力体制

県民会議の体制や市町へ市町連絡調整会議等を活用し、自治会等の各種地域団体も含めた協力体制を構築していきます。

- (2) 協賛、応援事業の活用

協賛、応援事業の枠組を活用し、クリーンアップ活動や物品等の提供により、企業・団体の協力を集結していきます。

例：企業や団体によるクリーンアップ運動の協賛、応援事業の登録
各種スポーツ大会や地域のイベント・祭等での 10 分間クリーンアップの呼び掛け

クリーンアップ活動への物品等の協賛 等

- (3) キックオフイベントの展開

市町や関係団体等、一人でも多くの県民がクリーンアップ活動を行う日をキックオフイベント設定し、機運の醸成や一体感の構築をはかっていきます。

なお、記念品等には協賛・応援事業や寄附金等も活用し、県民の力をあわせた活動となるよう取り組んでいきます。

平成 27 年 9 月 14 日
事業推進課

花いっぱいおもてなし運動について(案)

1 目的

伊勢志摩サミットの開催にあたり、三重県を訪れる方々を、おもてなしの心と美しい花々で歓迎するため、「花いっぱいおもてなし運動」の取組を実施します。

2 事業概要

「花いっぱいおもてなし運動」は、三重県を訪れる方々を県産の花き花木でおもてなしをする取組であり、サミット開催地の伊勢志摩地域を中心に、全県的に展開します。また、この機会を利用して、三重県産の花き花木をPRし、魅力を発信します。

3 取組方針

- (1) 三重県産の花き花木を積極的に使用し、広く産地の情報を発信します。
- (2) 一人でも多くの県民の方々に参加していただけるよう、市町や関係団体等と協力しながら、全県的な取組として展開します。
- (3) サミット本番前にキックオフセレモニーを開催し、サミットの成功と歓迎機運の醸成及び県民参加意識の向上を図ります。

4 今後の進め方

(1) 全県的な取組

①市町庁舎における飾花

各市町の庁舎内に県産花き花木を飾り、庁舎を訪れる地元住民の方々にサミット開催が近づいていることを実感していただきます。

②各市町でのプランター設置

各市町に花苗、プランター、培養土等の必要資材を配布し、各自治体内に設置します。

※各市町独自で実施されている花いっぱい運動と連携して事業展開を行います。

(2) 協賛事業・応援事業の活用

企業や団体に事業への登録を行っていただき、物品提供や花の飾り付け等でご協力いただきます。

例) サミット開催の影響で注目される場所、人が集まりやすい場所での飾り付け
→宿泊施設、商業施設、電車駅構内、高速道路SA・PA、フェリー乗場等

(3) キックオフイベントの開催

サミット本番前に、県内一斉に花の飾り付けを行うキックオフイベントを開催し、歓迎機運や参加意識の向上を図ります。また、物品や記念品等は協賛事業・応援事業、寄付金等を活用し、より多くの県民に参加していただけるよう取り組んでいきます。

三重県の花きカレンダー

○:出荷/鑑賞時期 ●:鑑賞時期

鉢花

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
シクラメン	●	●	●								○	○
ハイドランジア				○	○	●	●					
セントポーリア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ポインセチア	●									○	●	●
サイネリア	●	●	●	●								○
プリムラ・ポリアンサ	●	●	●	●							○	○
プリムラ・マラコイデス	●	●										○
プリムラ・ジュリアン	●	●	●	●							○	○
シャクナゲ	○	○	●	●	●				○	○	○	○
ニューギニア				○	○	●	●	●	●	●	●	
インパチエンス												
カンパニュラ				○	●	●	●					
ヘリクリサム		○	●	●								
クロサンドラ					○	●	●	●	●	●	●	
サルズベリ									○	●	●	
ブーゲンビレア						○	○	●	●	●	●	
ミニバラ		●	●	●	●	●			●	●		
ペラルゴニウム				○	●	●						

洋らん

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
シンビジウム	●	●	●	●							○	○
コショウラン	●	●	●	●						○	○	○
デンドロビウム			○	○	●	●						
アングロカステ		○	○	○	○	○	○					
バフィオペディラム	●	●	●								○	○

観葉植物

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ヘデラ						周	年					
ボトス						周	年					
アンスリウム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●
スパティフィラム	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●
グズマニア						周	年					
ディジタセカ						周	年					
パーセノシッサス						周	年					
ブミラ						周	年					
オフィオポゴン						周	年					
モンステラ						周	年					
カラジウム				○	○	●	●	●				
ソレイロリア						周	年					
ツデーシダ						周	年					
トラデスカンティア	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●
ディフェンバキア	●	●	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●
シェフレラ	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	○	○
ドラセナ類	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●
エクメア				○	○	○	○	●	●	●	●	●
フィロデンドロン	●	●	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●
エアランツ						周	年					

花苗

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ガーデンシクラメン	●	●	●	●	●					○	○	○
パンジー	○	○	○	○	○	●	●			○	○	○
ビオラ	○	○	○	○	○	●	●			○	○	○
ハナショウブ					○	●	●					
ゼラニウム	○	○	○	○	●	●	●	●	●			
ハボタン	●	●	●									○
エボルブルス					○	●	●	●	●	●	●	
ニチニチソウ				○	●	●	●	●	●	●	●	
キンギョソウ	●	●	○	○	○	○				○	○	○
サルビア				○	○	○	●	●	●	●	●	
マリーゴールド			○	○	○	●	●	●	●	●	●	
ポーチュラカ					○	○	○	●	●	●	●	
ペチュニア			○	○	○	●	●	●	●	●	●	
バーベナ				○	○	○	○	●	●	●	●	
ペゴニア					○	○	○	○	●	●	●	
トレニア				○	○	○	●	●	●	●	●	
コリウス						○	○	○	●	●	●	

切り花

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
バラ						周	年					
キク						周	年					
トルコギキョウ	○	○	○	○	○	○	○	○				○
ガーベラ						周	年					
ストック	○	○	○	○	○						○	○
スイートピー	○	○	○	○	○						○	○
カーネーション	○	○	○	○	○	○				○	○	○
グラジオラス						○	○	○	○			

ホームページ・SNSのリニューアル及び運営について

1 目的

現存ホームページ（以下、HP）をリニューアルすることにより、県民会議の取り組む事業、住民に影響を与える事象に関する情報、国内外から来県される方のための情報（宿泊予約案内、アクセス 等）をタイムリーにわかりやすく発信します。

また、既に運用している SNS（Facebook ページ及び Twitter）についても、HP の運営・管理と併せて運用を事業者へ委託することで、より効果的な情報発信や炎上対策等のセキュリティ強化をはかります。

2 事業の概要

HP や SNS を活用することで、県民会議の取組や三重の魅力を幅広く発信していきます。

なお、HP のリニューアル及び HP ・ SNS の維持管理運営については、バナー広告等で賄うことを前提に、受託事業者は業務に係る経費をすべて負担することを条件に、当該 HP における広告収入を経費に充当できる仕組みとしていきます。

3 取組方針

(1) HP

「国内在住の方」及び「海外からサミット取材に訪れるプレス」を対象に発信していくため、当該 HP は日・英の 2 カ国語対応を基本とします。

- ・ 国内向けには、県民会議の取組、協賛・連携・寄附事業の周知と依頼、各種規制情報、宿泊予約案内、三重県概要等を発信
- ・ 海外プレス向けには、三重県での滞在に関する情報（病院・警察、両替可能場所、宿泊予約案内等）、県民会議の一部の取組等を発信

※コンテンツにあわせ、一部は多言語化を予定

(2) SNS

県内でサミットに関心のある方、サミットを契機に地元を盛り上げる意欲のある方や、県外でサミットに関心のある方、三重にゆかりや関心のある方をファンとして取り込むような発信をします。

4 今後の進め方

9 月中に企画提案コンペを実施し、11 月中をめどにリニューアルする予定です。

平成 27 年 9 月 14 日
事業推進課

伊勢志摩サミット公式ポスター第 2 弾以降の制作について

1 目的

三重県で開催される主要国首脳会議の成功に向け、多くの方に伊勢志摩サミットを PR するため第 1 弾ポスターを制作したが、第 2 弾から第 5 弾までのポスターを作成することで、サミット開催への期待感と「おもてなし」「明日へつなぐ」「三重の発信」への県民の意識の醸成を図ることを目的とする。

2 ポスターシリーズの基本構成

開催機運と県民意識の醸成を表現するため、「起・承・転・結」の構成とする。

ポスターデザインは、第 2 弾から第 4 弾ポスターの掲出時期が半年と短いことから、複数点数では県民会議のポスターとして認知効果が薄まることが懸念されるため、各弾一種類とする。

(1) 【第 1 弾・7 月～掲出】※掲出済

起：サミットが伊勢志摩で開催されることを PR し、期待感を醸成

- ・サミット予定地の賢島とリアス式海岸の写真を活用し、伊勢志摩サミット 2016（開催決定）を県内外へ発信
- ・豊かな自然と美しいリアス式海岸を映しだす写真で伊勢志摩を PR

(2) 【第 2 弾・10 月～掲出】

承：県民会議の象徴となるシンボルマーク決定告知

- ・シンボルマーク作成者へポスターデザインも同時に作成依頼
- ・第 2 回県民会議総会でシンボルマークと同時に発表（10 月中旬）
- ・シンボルマークと作成に込めた思いを広く県内外へ発信

(3) 【第 3 弾・12 月～掲出】及び【第 4 弾・3 月～掲出】

転：県民参加のポスター公募

- ・第 3 弾、第 4 弾のポスターデザインを県民から公募する。
- ・テーマを「おもてなしの心」として、「おもてなし」や「歓迎」という伝わりにくいテーマをポスター表現することで県民の意識啓発を目指す。
- ・デザインは県民会議会長及び県民会議事務局で決定
- ・ポスターの印刷や配布は、企業等の協賛で実施

サミット終了後・・・

(4) 【第 5 弾・5 月 28 日～掲出】

結：サミット終了が新たなスタート

- ・明日へつなぐをテーマに、アフターサミットへ向けてメッセージを記載
- ・サミット開催までに実施してきた県民参加事業を写真を中心に構成

平成 27 年 9 月 14 日
事業推進課

カウントダウンボード、ノベルティを活用したPR展開

1 目的

伊勢志摩サミットに向けて、協賛事業も活用しながら県内外の各地にカウントダウンボードを設置することで、歓迎機運の盛り上げを図っていきます。また、PR効果の高い県外でのイベント等も含め、三重県で開催される全国大会等において伊勢志摩サミットの開催を幅広く周知するため、各種PRツールを作成します。

2 取組方針

(1) カウントダウンボードの県内・県外の複数設置

カウントダウンボードについては、民間企業・団体に協賛、応援事業としてご協力いただき県内だけでなく東京、名古屋、大阪など県外にも複数設置することで、県民だけでなく国民に対しても伊勢志摩でのサミットの開催が近づいていることをPRします。

また、県民会議会長の鈴木知事、地元首長、協賛、応援企業の代表者等による除幕式の開催を調整することで、報道を通じた情報発信につなげます。

(2) カウントダウンボードの制作への参加

子ども、若者、障がいのある方など多様な方がカウントダウンボードの制作に参加していただくことで、サミット開催に向けて県民が一体となって参画いただいているというメッセージを発信します。

(3) イベントでの伊勢志摩サミット開催のPR

関係閣僚会合や三重テラス等PR効果の高い県外でのイベントや三重県で開催される全国大会等において、ポストカード等の各種PRツールを用いて幅広く周知を行います。また、集客力及びPR効果の高いイベントには、県民会議として出展等を行い情報発信を行います。

(4) 各種PRツールの作成

手提袋、ポストカード、クリアフェイル等様々な場面に応じて配布できる各種PRツールを作成します。

3 今後のスケジュール

(1) シンボルマーク決定まで（8月～10月中旬）

第1次公式ポスターを活用したPRツールを作成します。（ポストカード、手提袋等）

(2) シンボルマーク決定後（10月中旬～）

シンボルマークを活用したPRツールを作成します。

協賛、応援事業を活用したカウントダウンボードを設置します。（200日前/11月8日を目標）

プレス等を活用した情報発信の展開について

1 目的

国内外のメディアに三重県を取材する機会を提供し、三重県ならではの体験や三重県の多彩なコンテンツを体感いただき、三重県の魅力を国内外へ発信することで、三重県の認知度を高め、ブランドイメージの確立・浸透をはかるとともに、開催後のインバウンドをはじめとする観光客の増加や県産品の販売増につなげます。

2 取組方針

- (1) 県・市町の関係部局とも連携を図りながら、メディアの発信先や特性に応じてテーマ設定や訪問先などのコンテンツ選定を行い、三重の誇る食、文化・伝統、自然や産業技術等を効果的に発信できるように努めます。
- (2) 県内各地域の情報が国内外に広く発信できるよう、取材エリアの選定を工夫します。
- (3) 県民会議主催の事業だけでなく、外務省等の国関係機関や県の各部局、市町、各種団体等の行うメディア関連の事業に対し、コースやテーマ等の提案・調整を行い、これらの事業トータルで効果的なメディア発信を行う構成とします。
- (4) コースやテーマ設定の際には、多様な暮らしを営む県民（生産者、経営者、子ども、女性、高齢者等）が、できるだけ取材されるよう努めます。

3 事業の概要

単にプレスツアー等を実施するだけでなく、プレスツアーへの参加を呼び掛けるイベントを開催することでプレス等との関係を構築し、より効果的な情報発信に努めます。

(1) プレスツアー、ファムトリップ等

各種プレスツアーやファムトリップ等については、地域性、テーマ性も考慮しつつ県民会議からコース等の積極的な提案を行います。

①県民会議主催プレスツアー（1泊2日）（3回程度）

②外務省等主催のプレスツアー（8回程度）

③海外メディアやエージェントのファムトリップ（複数回） など

(2) プレスツアーの参加に向けた各種行事

プレスツアーを開催するに当たり、プレス等との関係性を構築しツアーへの参加を呼び掛けるイベントを開催します。

①海外プレス向けブリーフィング…外国報道機関を対象としたブリーフィングを開催します。

②メディア交流会等…首都圏等でメディア等を対象にした各種情報発信の機会を活用します。

4 今後の進め方

県民会議主催のプレスツアーについては、第1回を12月上旬に実施する方向で調整します。

外務省等主催のプレスツアーについては、各部局や市町、関係団体と調整し、県内の行程について県民会議から積極的に提案を行います。

海外プレス向けブリーフィングについては、早期の開催に向け関係機関と調整を行います。

平成 27 年 9 月 14 日
事業推進課

ASEAN プレスツアーの概要について

1. 参加国 ASEAN 加盟国（インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス）

2. 参加人数 10 名

3. ツアー日程 別紙の通り

4. 取材の状況

○四日市公害と環境未来館

- ・サミット関連第 1 回目の海外プレスツアーということで、多くの国内プレスの方（新聞、TV 共）に取材いただいた。
- ・未来館では、公害発生からその克服までが時系列でわかりやすく展示されており、参加者からの評価が高かった。
- ・四日市市の環境改善への取り組みに対し、大変参考になったという意見が多かった。

○日本アルシー株式会社

- ・污水处理プラントの説明に対し、メカニズムやコスト面を中心に、多くの具体的な質問があった。
- ・実際にプラント内の（浄化された）透明な水を見て、驚きの声があがっていました。

○夕食懇談会

- ・用意した三重県産食材を使ったメニューは予想以上に好評だった。
- ・肉類、ピラフ、魚や果物と総じて好評であったが、一番人気は抹茶ケーキだった。

○夜景クルーズ

- ・夜景の美しさと、産業施設に特化したクルーズを観光事業化したというアイデアが評価されていた。

○総括

- ・ASEAN 各国では様々な形で環境問題を抱えているため、今回の訪問先は、参加者の取材ニーズに一致しており、その結果として、内容の濃い、充実したツアーになったと考えられる。

ASEANグループ プレスツアー 行程表

月 日	時 間	行 程	備 考
8月27日 (木)	13:15-14:15	四日市公害と環境未来館 (四日市市安島1-3-16)	
	15:00-16:15	日本アルシー株式会社 (三重郡菰野町竹成1270)	
	17:30-18:45	三重県主催夕食会 (四日市市安島1-3-38 四日市都ホテル16階 ラ・メール)	
	19:30-20:30	四日市コンビナート夜景クルーズ (四日市市千歳町37 四日市ポートサービス 埠頭ビル1階)	

平成 27 年 9 月 14 日
事業推進課

中東プレスツアーの概要について

1. 参加国 中東 5 か国 (エジプト、ヨルダン、カタール、トルコ、アラブ首長国連邦)
2. 参加人数 5 名
3. ツアー日程 別紙の通り

4. 取材の状況

【8 月 30 日 (日)】

○伊勢神宮 外宮 (14:50-15:20)

- ・手水舎での作法に関心を示され、一連の動作をそれぞれが興味深く行っていた。日本の作法等に関心があることがうかがえた。
- ・参拝はされなかったが、正宮まで行き、参拝の様子を観察された。

○伊勢神宮 内宮 (15:35-16:05)

- ・宇治橋や橋の上から見る五十鈴川など、風景に対して関心があり、写真を撮影する姿が多く見られた。

○おかげ横丁 (16:05-17:30)

- ・五十鈴茶屋にて提供された赤福餅、抹茶に対して高い関心がうかがえた。また、日本的な畳の部屋にも関心を示していた。特に、抹茶については全員が飲み干し、後のおかげ横丁での買い物でも茶を立てる竹製の器具を購入するなど日本茶に非常に関心が高かった。
- ・UAE の記者は赤福餅と抹茶の写真を SNS 等でアップし、すぐに多くの反響があったと聞いている。

【8 月 31 日 (月)】

○横山展望台、賢島 (8:40-9:00)

- ・海女漁視察が中止となったことを受け、参加者からの希望もあり、会場予定地の賢島周辺を視察した。横山展望台から英虞湾の風景を撮影する姿が多く見受けられた。

○海の博物館 (9:50-11:15)

- ・海の博物館及びはちまんかまどは、多くの国内報道機関に取材いただいた。

・海の博物館では、概ね以下の質問がなされた。

- ① なぜ「海女」が女性であるのか
- ② 海女文化を守るために政府の助成はあるか
- ③ 便利な道具がある中、現在の素潜りによる漁を続けるのか

それぞれ、石原館長より以下の旨回答がなされた。

- ① 女性は男性に比べ脂肪が多く冷たい海に耐えられること、男性は遠洋へ出て漁をし、女性は近海の比較的安全な所で漁をすることが多いことが理由。
- ② 日本は漁業を大切にしてきたが、海女だけ特別な助成はない。しかしながら、海女漁を大切にすべきとの考えから、文化財として保護する動きが出てきた。
- ③ 海女漁に限らず、海産資源を獲りすぎないことが重要である。実際海女漁は年間60日～70日程度しか漁にでない。これはすべて海産資源を守る為でもある。

・博物館内の視察においても関心をもって視察されており、入口近くの見本(魚、貝など)は楽しそうに視察されていた。

○はちまんかまど (11:45-13:15)

- ・中東地域は海産物に馴染みがなく、貝などは不得手という情報があったが、結果として、伊勢エビ、アワビ、ヒオウギ貝、大あさり、サザエといった海産物に対して、非常に満足して食されていた。
- ・はちまんかまどはムスリム向けに礼拝堂を設けており、数人が礼拝する場面もあった。
- ・国内プレスの質問に対してトルコの記者は、「自然と共生し、資源を守る海女文化は世界にとって大切。自国でも、発信していきたい」と回答していた。

○総括

女性が輝く社会に向けた国際シンポジウムの取材のため来日した記者であるため、女性が活躍する海女文化への取材をキーワードに行程を設定した。

日本の精神性や海女文化を取材していただく機会になり、異文化の発信に繋がるとともに、記者の感想でも「個人的に家族とともに再訪したい」など満足していただいた。

中東グループ プレスツアー 行程表

月 日	時 間	行 程	備 考
8月30日 (日)	13:30-14:30	せんぐう館 (伊勢市豊川町前野126-1)	
	14:30-15:00	伊勢神宮(外宮) (伊勢市豊川町279)	
	15:20-16:10	伊勢神宮(内宮) (伊勢市宇治館町1)	
	16:10-17:00	おかげ横丁 (伊勢市宇治中之切町52)	
8月31日 (月)	8:30-9:30	海女漁 《鳥羽市相差町—鳥羽磯部漁協相差支所》 (鳥羽市相差町443)	前日の大雨等の 影響で中止
	8:40-9:00	横山展望台	海女漁中止に伴 い行程変更
	9:50-11:20	海の博物館 (鳥羽市浦村町大吉1731-68)	
	11:45-13:15	はちまんかまど (鳥羽市相差町くじら崎)	

平成 27 年 9 月 14 日

事業推進課

三重県情報館（仮称）について

1 目的

国際メディアセンター内に、国内外から来県する多数の報道関係者等を通じて、三重県の魅力を国内外に発信するための拠点として三重県情報館（仮称）を設置します。

■ねらい

国内外での知名度向上により、三重県へのインバウンド及び国内観光者の増加、県産品の輸出増加及び国内での需要拡大など三重の活性化につながります。

2 事業の概要

■期間：国際メディアセンターと同期間

■内容

(1)取組方針

基本コンセプトに基づき、日本の中の「地方」の代表として三重県の魅力を課題も含め発信します。また、国との連携を密にし、国の広報スペースにおいて、オールジャパンとしての取組み（東京オリンピック・パラリンピック、東日本大震災からの復興、関係閣僚会議など）や東海及び中部地方の発信を要望するとともに、三重県情報館（仮称）の中でも連動するなど、国の広報内容と調和のとれた展開をめざします。

①五感を刺激するために可能な限り、実際に触れたりできる「実物」を展示するとともに、実演・体験なども含めた PR を行います。（例：試食、忍者ショー等）

②情報館が、国際メディアセンターを訪れる全ての報道関係者が通る動線上に配置されるよう国に強く要望していきます。

③優雅できめ細かなおもてなしを行います。（例：松阪木綿の着物を着た通訳者による説明、四日市萬古焼急須での伊勢茶ふるまい、三重県らしい記念品プレゼント、伊勢のバラによる装飾等など）

④可能な限り 29 市町の情報を発信します。

(2)ブース構成イメージ（テーマで構成した場合の例）

①三重の『食』…海・山・平野の豊かな三重の食材・加工品（菓子もち等）・飲料等の展示・試食。（食材の提供は素材を生かした調理を基本とする）

②三重の『技』…日本の製造業の縮図としての技術のショールームを設置。MR J の尾翼や超小型モビリティなど本物の展示を中心に、三重ならではの水素エネルギーへの取組みや、実演も含めた伊勢型紙等の郷土の技術を紹介。

③三重の『姿』…三重独自の文化・歴史、変化に富んだ豊かな自然などを紹介。1300 年にわたる式年遷宮の歴史を持つ伊勢神宮や、自然との共生を願う海女漁の思想などのストーリー性のあるコンテンツを紹介。

3 今後の進め方（案）

発信コンテンツは、基本コンセプトが固まり次第、各市町及び県各部局へ相談をさせていただき、選定委員会等を経て決定する予定です。

平成 27 年 9 月 14 日

事業推進課

三重県情報誌及びプレス用ハンドブックの作成について

1 目的

伊勢志摩サミット開催に向けて、国内外報道関係者およびG 7 各国代表団等に、三重県の情報等を提供することで、三重県への理解を深めていただくとともにサミット開催に対する報道活動をサポートする地域情報も提供し、記事等を通じた内外への情報発信を促進します。

2 取組方針

- (1) 人口や面積、主要産品などのデータなども活用し、三重県の情報をわかりやすく掲載した三重県情報誌、プレス用ハンドブックを作成配布することで国内外報道関係者等が必要な情報を発信することをサポートします。
- (2) 国内外報道関係者等へ効果的に三重県の情報を発信するため、既存のパンフレットも活用したプレスキットを作成して配布します。

3 事業の概要

(1) 三重県情報誌の発行

三重県の観光、文化、食材など三重県の多彩な魅力の情報と三重県の沿革、自然、産業、G 7 各国と三重県との関係など基礎データ情報が一体となった情報誌を作成し、レセプションやプレスツアー等の機会を活用して国内外報道関係者等に配布することで、三重県への理解を深めていただくとともに、国内外のメディアに取材や記事化等のツールとして活用できるようにしていきます。

(2) プレス用サミットハンドブックの発行

県内マップ、交通案内、食事、観光、お土産情報など、サミット開催期と開催後に国内外報道関係者等の県内移動、滞在、取材活動、県内観光をスムーズに行える情報を掲載し、記者等の取材をサポートします。

4 今後の進め方について

- ・関係部局等と連携し、既存のパンフレット等とあわせて効果的な掲載内容の選定を行っていきます。
- ・プレスツアー、ブリーフィング等で情報誌を配布できるよう準備を進めます。
- ・メディアの種類や国にあわせて、ターゲットに最も効果的なプレスキットとなるように準備していきます。
- ・伊勢志摩サミット県民会議のホームページに情報誌の内容を掲載することで、県外や海外に向けて発信します。

平成27年9月14日

事業推進課

多様な主体における国際理解・国際交流事業について（案）

1 目的

サミットの開催を契機として、サミット参加国について学ぶ機会を設け、学校や市町、民間企業・団体等、多様な主体が、国際理解・国際交流を深める機会を提供する。また、特に次代を担う子どもたちが多文化を理解し、国際的な視野や感覚を身に付けるきっかけとなることをめざす。

2 事業の概要

学校や市町、民間企業・団体等の多様な主体が、県及び市町教育委員会や関係団体等と連携し、国際理解・国際交流につながるよう、次の取組等に対する支援を行う。

(1) 児童・生徒を対象とした取組

- ・ 県内各地の学校における参加各国やサミットのテーマについて学ぶ授業や交流事業等の実施
- ・ 学校給食における参加国の料理の提供 等

(2) 広く県民を対象とした取組

- ・ 生涯学習講座等における各国料理教室や異文化交流教室の開催
- ・ 各種イベント等での国際理解・国際交流事業の展開
- ・ 様々なパネル展示等による参加各国紹介 等

3 取組方針

- (1) 学校や市町、民間企業・団体等、多様な主体による取組が実施されるよう働きかけを行い、一人でも多くの県民がサミット参加国や多文化に関心を持てるよう、全県的な取組とする。
- (2) 取組情報等を報道に資料提供することで、パブリシティによる情報発信を行うとともに、取組への士気を高める。
- (3) 当事業を通じた取組を生かし、サミット終了後も継続する国際理解・国際交流事業の展開につなげていく。

4 今後の進め方

学校や市町、民間企業・団体等と連携し、上記「2. 事業概要」に挙げたような取組に対する支援（国際理解・国際交流プログラムの開発に基づくノウハウの提供や、県内人材の活用による講師の紹介・派遣等）を行う。

平成 27 年 9 月 14 日
開 催 支 援 課

インフォメーション機能の整備について（案）

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、移動・滞在・観光等のインフォメーション機能を充実させ、来県者（主に報道関係者）への支援を行うなど、世界各国からの来県者をおもてなしの心でご案内できるようインフォメーションセンターを設置する。

2 取組内容

(1) インフォメーションセンター設置場所と活動内容

① 主要拠点（運営主体：三重県民会議）

- ・国際メディアセンター
- ・滞在期間中の活動支援全般と三重県の情報発信

② 県内主要ターミナル（運営主体：各所在市町主体）

- ・JR 津駅、なぎさまち旅客ターミナル、JR 松阪駅、JR 伊勢市駅
近鉄鳥羽駅、近鉄鵜方駅等
- ・宿泊先・国際メディアセンター等への移動支援と現地観光案内

③ 三重県外（運営主体：愛知県・名古屋市・中部経済連合会等と調整）

- ・中部国際空港、名古屋駅等
- ・現地への移動支援と三重県及び中部地域の情報発信

(2) 運営スタッフ（上記①②③は次の通り）

- ①県民会議スタッフ、外国語案内ボランティアと一般ボランティア
- ②運営主体のスタッフと県民会議派遣の外国語案内ボランティア
- ③運営主体のスタッフと県民会議スタッフ

※センターを設置しない市町の観光案内所スタッフ等も実践研修の場として参加可能とする。

3 取組方針

- (1) 三重県及びサミット関連の情報発信資料は各拠点で共通に使用できるものを県民会議で用意する。各拠点ごとの独自の資料、サービス内容は各運営主体が企画・手配する。
- (2) 三重県内の拠点で必要となる外国語案内ボランティアは、県民会議が一括して募集し派遣する。
- (3) インフォメーションセンタースタッフとして全拠点に共通して必要なサミット関連の知識や接遇方法等については、県民会議以外のスタッフについても合同で研修を行う。また主に外国人を対象とした接遇用ハンドブックを制作し広く活用する。

4 今後のスケジュール

平成 27 年	9 月 ～	10 月	県内設置に係る調整
平成 27 年	9 月 ～	12 月	県外設置に係る調整
平成 28 年	5 月 20 日（金）～	28 日（土）	インフォメーション設置

平成 27 年 9 月 14 日
開 催 支 援 課

外国語案内ボランティアについて（案）

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、県内主要駅等に設置するインフォメーションセンターにおいて、特に外国人報道関係者への支援のため、外国語案内ボランティア活動を実施することで、サミットの円滑な運営に寄与する。

2 取組内容

(1) 募集

外国語（主に英語）による案内業務が可能なボランティアを公募する。

(2) 研修

ボランティア参加者に対し、語学研修及び接遇研修等を実施する。

(3) 活動

インフォメーションセンターにおいて、移動・滞在・観光等の情報提供を通じて外国人報道関係者を支援する。

3 取組方針

(1) 募集、研修及びコーディネート業務を企画提案コンペにより外部委託する。

(2) 募集に先立ち、県内の語学ボランティア団体等を対象に、県民会議主催の関係者説明会を実施する。

(3) 募集対象は、一般、大学生、外国人留学生及び高校生とし、募集人数は 100 人程度とする。

(4) ボランティア参加者の能力に応じた語学研修及び接遇研修等を実施し、能力の向上を図る。また、ボランティア参加者の応募状況に応じ、複数会場での研修を検討する。

(5) 活動場所は、設置されるインフォメーションセンターのうち県内のものとし、活動期間は、サミット開催日（5 月 26 日、27 日）の 1 週間前から会議終了日の翌日までとする。

(6) ボランティア参加者が、県内で開催される MICE、外国人観光客のおもてなし及び各種ボランティアにおいて引き続き活動できる体制づくりを行う。

(7) インフォメーションセンター以外での外国語ボランティア活動についても検討する。

4 今後のスケジュール

平成 27 年 10 月～12 月

ボランティア募集

平成 28 年 2 月～ 3 月

ボランティア研修（語学、接遇）

4 月～ 5 月

ボランティア結団式

5 月 20 日～28 日

ボランティア活動

6 月

ボランティア解散式

平成27年度東海三県一市知事市長会議の開催結果について

1 要旨

9月9日(水)、岐阜県多治見市において「東海三県一市知事市長会議」が開催され、「伊勢志摩サミットについて」を議題に、行政の役割や3県1市の連携取組について協議し、今後、情報共有や取組について話し合う場として「東海三県一市担当課長会議」を設置することとなりました。

また、広域連携による海外誘客の強化、交通基盤の整備による東海エリアの産業・観光等の振興、陶磁器産地としての連携等について議論が行われ、今後、これらについて3県1市が連携して取り組んでいくこととなりました。

2 概要

(1) 伊勢志摩サミットについて

鈴木知事から、警備体制の強化に向けた2県1市への協力依頼や、共同で実施していきたい国等への要望、3県1市の連携取組案について説明を行った後、各県市の対応等について意見交換が行われました。

今後、協議・調整の場として「東海三県一市担当課長会議」を設置し、情報共有を図り取組を進めていくことになりました。

(主な発言)

鈴木知事：警備等の要員確保や、空港や主要駅の使用・規制等について協力をお願いしたい。

国に対し、警備や社会資本整備等への財政的支援や、東海地方のものづくりをPRする施設の設置、国際会議の誘致を提言していくほか、3県1市が連携し、三重テラスを活用したイベント等を実施してはどうか。

古田知事：国との協力関係の構築については三重県が窓口となり、国の動向や進捗を迅速に情報提供してほしい。また、国に対して地元の想いを伝えていただきたい。

大村知事：中部国際空港のある愛知県はゲートウェイの役割を担うので、9月11日に庁内にサミット対策室を開設し、警備やサミット関係者の受入れ、地域のPRを検討していく。課題を洗い出し、3県1市でしっかり連携したい。

河村市長：名古屋駅は各地域への乗り換えの場所となる。名古屋城などの地域資源について、海外の方に印象づけたい。

(2) 広域連携による海外誘客の強化について

海外誘客の拡大に向けて、広域観光ルートの充実や交通事業者と連携した取組について、意見交換を行い、今後、集中的に取り組む内容について、新たに設置される伊勢志摩サミットの担当課長会議の中で検討していくこととなりました。

構成自治体への協力依頼

※現在想定される項目であり、今後増える可能性あり

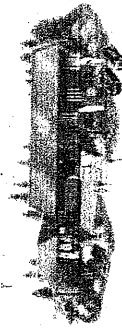
- 警察、消防、医療等の要員確保、体制整備、警備等の具体的活動の実施 など
- 中部国際空港や主要駅の使用及び関連規制、公共交通機関の利用に関する協力 など

共同・連携事業

(1) 国等への提言・要望

- サミット開催にあたって必要となる警備、消防
社会資本整備等に関する財政支援
(今後のサミット開催におけるスキーム確立)

- 次世代自動車やMRJ等の
東海地方のものづくりの最新
技術をPRする拠点の設置
(国際メディアセンター内に要望)



洞爺湖サミットにおける
ゼロエミッションハウス

- サミットテーマや東海地方の特性に関連する
国際会議の誘致 (例：WAW!、ビジネスサミット)

実践及び情報共有

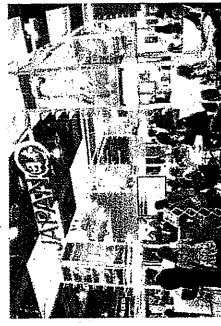
民間に期待すること

(2) 構成自治体で連携した取組

- 出迎え、イベント
中部国際空港や主要駅でのカウンタダウン
ボードやインフォメーションセンターの
設置や歓迎行事など
- 周遊・滞在型の旅行商品の開発
公式行事等に用いたコンテンツを活かした旅行商品の共同開発
- 他の関係閣僚会合開催地 (富山、長野等) との連携
- MICE誘致に向けた取組
MICE博への出展等
- 東京における東海三県一市唯一の
情報発信拠点「三重テラス」を
活用したプロモーションイベント



セントレア観光案内所



IMEXAmerica2014
(MICE専門見本市)

東海三県一市担当課長会議の設置を提案

・行政の取組に呼応し、サミット開催という千載一遇の
チャンスを活かした民間団体・企業等による取組を期待
・官民あげた取組により、東海地方の総合力アップ!

